

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	2008年2月20日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了16時00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 明倫館 (鹿児島県)
-------------------	-------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 <u>石松 成子</u>
	氏名 <u>水流 涼子</u>
事業所側対応者	職名 <u>事務局長・管理者・計画作成担当者</u>
	氏名 <u>杉田文彦・山崎文枝・末元文代</u> ヒアリングを行った職員数 3名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月23日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県4675200168号		
法人名	特定非営利活動法人 新生活環境研究所		
事業所名	グループホーム明倫館		
所在地	鹿児島県始良郡加治木町木田5348番地170 (電話) 0995-62-5651		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年2月20日	評価確定日	平成20年3月18日

【情報提供票より】(20年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 8 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤10人, 非常勤10人, 常勤換算11.85人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有(円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名	
要介護1	5名	要介護2	5名			
要介護3	6名	要介護4	1名			
要介護5		要支援2	1名			
年齢	平均	86歳	最低	81歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大井病院 ・ 山中歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型サービスとして、住宅街にあり入居者は自宅訪問も気軽にでき、馴染みの人や場所との関係が継続できている。人員配置もゆとりをもたせ、入居者一人ひとりに寄り添い、地域で暮らしつづけることを支えるサービスを、運営者・管理者・職員全員で実践している。職員の研修や資格取得など積極的に進め、事業所の実情なども運営推進会議等できたん無く話し合い、チームワークを大切にしている。地域に貢献する事を目的として講演会を主催したり、地域の福祉向上に積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	活動意欲を触発する物品の用意については、職員間で話し合い、具体的な改善に取り組み中である。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
重点項目 ②	自己評価については、早い時期から全職員で取り組み、評価の意義を理解し、自己評価の過程で具体的な改善やサービスの質向上に活かす努力をしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目 ③	運営推進会議に幅広い立場の人に参加してもらい、ホームの状況や実情も明らかに報告し、多くの質問や意見を引き出し、サービスの質向上に活かしている。町担当者との連携も取れており、協働関係を積極的に築いている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目 ④	毎月ホーム便りを発行し、ホームの行事や入居者の様子・職員の異動など報告して、個別の様子や金銭管理は請求書送付時に文書で報告している。相談・苦情窓口を説明文書に明記し、入居時に説明しており、運営推進会議や家族会等で家族の意見を表す機会を設けている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、朝のゴミ当番や奉仕作業なども積極的に参加している。入居者も地域の方が多く、馴染みの人や場所との関係も継続されている。ボランティアの受け入れや事業所の主催でランドゴルフや講演会を開催するなど地域との付き合いを大切にしている。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 石松 成子 / 調査員 水流 涼子

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設の目的が、地域の方が住みなれたところで暮らしていけるようにとの思いが原点にあり、地域密着型サービスとしての役割を考えたい理念を作り上げている		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホームの見やすいところに明示し、管理者・職員はミーティング時に確認し、共有している。理念を意識したケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、朝のゴミ当番や奉仕作業なども積極的に参加している。入居者も地域の方が多く、馴染みの人や場所の関係が継続している。ボランティアの受け入れやグランドゴルフ・講演会を主催するなど地域との付き合いを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について、早い時期から全職員で取り組み、評価の意義を理解し、自己評価の過程で具体的な改善やサービスの質向上に活かす努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に幅広い立場の人に参加してもらい、ホームの状況や実情も明らかに報告し、多くの質問や意見を引き出し、サービス向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎週、町担当者を訪問したり、連絡をとり情報交換や課題解決に取り組んでいる。担当者との関係作りを積極的におこない、地域密着型サービスとして協働関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行し、ホームの行事や入居者の様子、職員の異動など報告して、個別の様子や金銭管理については、請求書送付時に文書にて報告している。健康状態は変化があったら、随時電話等で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	説明文書に相談・苦情窓口を明記し、入居時に説明している。面会時の交流、運営推進会議に家族代表の参加、年2回の家族会開催など意見を表せる機会を作り、意見を運営に反映するよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事務局長や管理者は利用者や職員の馴染みの関係の重要性を認識しており、採用時の対応や引継ぎ期間を十分取るなど配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所として全ての職員に研修の機会を確保し、研修報告も行い研修の内容を共有している。参加料の負担や資格手当・資格取得祝い金など支給し、働きながらの学びを積極的に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、事務局長は始良・伊佐地域の役職を担い活動を行っている。研修会など計画・実施しサービス向上に向けて実践的な交流や連携に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の相談があったら、ホームの見学をすすめ、職員が自宅や、病院を必ず訪問し、徐々に馴染めるようにして、入居直後は職員一人を配置するなど、安心感を持ってもらうよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、暮らしの中で経験や生活の技を教えてもらっている。普段から感謝やいたわりの言葉掛けを行ない、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	人員配置もゆとりをもたせ、入居者とのコミュニケーションを大切に、思いや意向の把握に努めている。自宅を訪問し、先祖参りや自宅の果物を取りに行くなど本人の思いを実現させるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は面会の時など家族から希望を聞き、カンファレンスで職員と話し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月ごとにモニタリングをおこない見直しをしている。状態の変化があった場合は、家族や職員と話し合い臨機応変に見直している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診時の送迎、リハビリ同行、墓参りや自宅訪問などその時々要望に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望の主治医や病院受診を支援している。主治医との連絡も密に取り、夜間時の往診なども対応してもらっている。家族への受診前や受診後の連絡・報告も随時行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期の対応について、現在は実施していないことを説明文書を元に話している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳と権利を守ることにについて、事業所として全員で取り組んでおり、言葉掛けや対応など毎日のケアに活かされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・就寝時間など一人ひとりのペースを大切にしている。入居者のバイタルチェック等一日2回実施し、入浴・買い物・散歩など体調に配慮しながら希望にそって柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の希望や調理の準備、味見・片付けなど手伝ってもらい、入居者・職員が会話を楽しみながら一緒に食事をしている。お箸や湯呑みなど使い慣れた物を利用している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日を週3回としているが、状況によって柔軟に支援している。入居者の習慣や好みを把握し、入浴拒否の方も入浴を喜んでもらえるよう工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の準備や掃除・洗濯物たたみ等できることをしてもらっている。習字を書いたり、好きなテレビ番組を見たり、レクリエーションで歌や体操など一人ひとりに合った役割や楽しみを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や入居者の様子を見ながら、買い物・ドライブ・外食、季節の花見など実施し、気分転換や季節を感じてもらえるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が鍵を掛けない暮らしの大切さを認識しており、鍵を掛けないケアを実践している。職員の見守りの連携も自然に行なっており、入居者も落ち着いた雰囲気がある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消火訓練や避難訓練を消防署と協力して実施している。地域の人々の協力体制づくりや、災害に備え飲料水や備品等の準備に取り組んでいない。		災害対策のため、日頃より地域の人々の協力が得られるよう働きかけ、又、災害に備えて飲料水・食糧など物品を準備しておくことが望まれる。

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分はお茶タイムを決め十分摂取するよう努めている。食事の献立は旬の野菜を利用し、バランスのよい食事を提供している。		入居者一人ひとりにあつた支援をするために、定期的に専門的アドバイスをしてもらう事が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を多く使い、居室の戸やホールのテーブルなど懐かしい雰囲気がある。不快な音や光もなく、季節の花や行事の人形の飾りつけをするなど、居心地よく過ごせる工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れたテレビや椅子・衣装ケースなど持ち込み、写真・思い出の品など飾り、安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。